



北谷 峰二

◆病院経営を振り返り

〔問〕病院管理者である市長に尋ねます。平成20年病院改革プランを策定されたが今まで経営改善と赤字解消がされなかった要因は。

〔答〕平成18年私が行った時に産婦人科医、呼吸器内科医が辞め事務局長在任中に整形外科医が複数人おり十分入院にも対応できる状況であったが医療を取り巻く環境や医師の専門性等で全体的に医師不足や研修医制度ができ地方に医師派遣が減少してきたことが大きな原因である。

〔問〕平成23年市長となり病院管理者として医師減少に対しての医師確保の行動は。

〔答〕市長と言う立場で大学の医局に行っても影響力が無いと言うのが現実。名大、岐大に医師派遣のお願いに行ったがいい回答を頂けなかった。

〔問〕病院経営を市長として真剣に危惧されてきたのか。

〔答〕引き留めを個人的に親しい先生にはしたがそれぞれ医師の都合や色々な事情で辞められるので引き留めし

なかつた。現場に任せておる状況である。是非いて下さいというのは言いたい引き留めというふうには解釈できませんでしたので行っていない。◆医師、職員の意見聴取について〔問〕院内でアンケートを実施され総務部長が言われたことと全く意見が異なっているが職員の意見は尊重されないのか。

〔答〕職員の思いは分かっているが急性期医療をいかに残していくかが私の責務だと思っている。

◆パブリックコメントについて

〔問〕岐阜JA厚生連の指定管理や一病院化に反対と言う意見が大変多いがこのことをどの様に判断するのか。

〔答〕人口が減少していく中、医療資源も先細ると言う中複数の急性期病院をこの地区に持つより一病院化が望ましい医療資源の集約化が必要。

◆公募について

〔問〕指定管理現状の総合病院ならば購入してもいいと言う民間医療法人が現れた。市にとって一番有利な将来を託せるような医療法人を選べるのであれば公募するべきではないか。

〔答〕急性期を受け入れる病院が分からない。あるならばあるでもっと早めに接近して頂ければ話し合いもあったがそれがあるからと言って目指すものは瑞浪市との連携の中で医療確保していくのが大前提である。

《第5回定例会一般質問》



水石 玲子

◆教育環境の改善について

〔問〕小・中学生の通学カバンについて文科省が全国の教育委員会に通知を出したがその後の進捗状況は。

〔答〕各学校で工夫して対応していることの中から、全ての学校で共通して取り組めることを明らかにした上で教育委員会が基本的な方針を3月までに出す予定。

◆思いやりのある新庁舎について

〔問〕緊急時に役立つエレベーターチェアについての認識は。

〔答〕非常用トイレや救済物資も収納でき、長時間の待機になっても安心とゆとりの気持ち、快適な空間ができるものであると認識している。

〔問〕設置するお考えは。

〔答〕新庁舎建設の基本構想におきまして、人に優しい性能として設置する。

〔問〕代読、代筆の窓口サービスについてのお考えは。

〔答〕現在、要望に応じて職員が対応している。案内ボードについては、今後の検討課題とする。

〔問〕職員の研修は実施しているのか。

〔答〕障害者差別解消法が施行されてから、職員対応マニュアルを作成し、周知研修を実施している。

◆市民の健康長寿延伸の推進

〔問〕健康ポイント事業の参加状況は。

〔答〕チャレンジシートを770枚配布。申し込まれた方は11月現在10人。

〔問〕介護が必要になる手前の状態「フレイル」と言いますが、フレイル予防についての市の認識は。

〔答〕フレイルの状態を早期発見し、正しく対応することが要介護状態になるのを防ぎ、健康寿命を延ばすことにつながるものと認識している。

〔問〕フレイルチェックの取り組みは。

〔答〕フレイルの兆候を身体面、社会面、精神面からチェックするツールという認識をしている。現在「はつらつ元気塾」を実施し、運動講座の前で体力測定により自己の状態をチェックし理解をしている。



はつらつ元気塾



後藤 久男

◆市長の3選不出馬記者会見について

問「次の市長選には3選不出馬を決めた」とする報道と東濃ニュースの報道について。

答出馬の可能性がゼロではないこと、事態が変われば出ると思うかもしれない。その時には、また記者会見を開き、理由を説明する。

◆総合病院の健全経営化と存続について

問指定管理者をJ.A.岐阜厚生連ありきで進めているのではないか。総合病院の指定管理者を公募するなら徳洲会グループと医療法人「成信会」は参加したいと言っている。また「成信会」は現状のまま購入し、産婦人科の開設も予定されている。J.A.岐阜厚生連を指定管理者にする案の対案にならないか。

答対案か対案でないかと問われれば対案ではない。後藤さんに話されているのは分かるが信憑性がない。そんな話があるなら、管理者である私に一番最初に言ってもらわなければならない。

問総合病院の指定管理者をJ.A.岐阜厚生連にする条例案が可決されると、総合病院の医師や看護師が何人か退職されると聞いている。そんな状況になっても、東濃厚生病院との連携強化や機能分担はできるのか。

答辞められるドクターもいれば、残っていただけのドクターもいる。このままいけばドクターがゼロになるのは目に見えている。そうなる前に手を打ちたい。

問25人の常勤医のうち、7人がやめると聞いているが18人でやれるのか。

答指定管理にし、経営を統合する中で縮小は致し方がない。私は経営を統合し、将来の一病院化に向けていくのがベターだと思う。その間の苦しい時期はある。

◆新庁舎建設について

問新庁舎建設の落札率99.9%と通常では考えられない落札率について。

答第1回目は予定価格超過であったため、第2回目の入札では落札となり、その際の予定価格に対する落札率が99.9%であった。今回のように、入札価格に近付く可能性はある。不調に終わる場合もある。

《第5回定例会一般質問》



小関 篤司

◆土岐市立総合病院について

問土岐市が瑞浪市に約400床の1つの病院に統合することについて、市の見通しはどのようですか。

答推進委員会でも承認頂いています。一病院化の手法はパブコメ含め、推進委員会で引き続き議論し結論をつけます。現状その手法、場所、管理者、形態含めて決まっております。

問市反問権 小関議員の質問を聞く、一病院化の明確なステージがなければ、現在の総合病院のあり方について結論を出すべきではないと聞こえるが、どのような考えか。

答(小関) 指定管理をやるといふことは、土岐市の病院職員はいなくなり、後戻りは出来ません。厚生連と一病院化が上手くいかなかった場合は、指定管理も先行きが分からない状況になると危惧しています。場所も何も分からないでは、決めていくのは難しいと考えています。

問今新庁舎をつくって、イオンの道路もつくって、これも園もつくっています。実際一病院化について

現実味があるのかないのか、お金案件面で見通しが立っていますか。

答(市長) 一病院化の展望は未定ですが想定は出来ます。一番の課題は東濃厚生病院は手狭で400床は無理です。土岐市立総合病院は築30年経っており、10〜20年で建て替え時期です。医局の要請などで厚生連とは一病院化に向けた基本的な合意はとれています。手法については厚生連の事情、土岐市の事情、瑞浪市の事情があり、具体的に提示しながら進めていく問題です。現段階で土岐市が勝手に言えない状況です。

問市長は構想を持っていますか。

答(市長) 理想的には案を持っていますが、関係者が合意できる形で進めるのがベターだと思えます。

問市民説明会を行う考えはないか。

答(市長) 方針が決まっていないので、今のところ予定はありません。

◆小中学校のエアコン設置について

問多治見市は当初2021年度末の工事完了の計画を2019年9月末に前倒しました。多治見市長さんと話しをさせてもらった時も自信を持っていました。土岐市の今後の見通し、意気込みはどうですか。

答遅くとも概略の積算をして3月補正に出したいと考えている。小学校を優先的に出来るだけ早い時期につけていきたいという方針です。